平成２８年度　市長と語ろう「わかものふれあいトーク」

●日　時　平成２９年２月２１日（火）午後６時００分～８時２０分
●会　場　市役所本庁舎　２階　市長応接室
●出席者　平成２８年度輝くまちづくり交付金事業採択団体より　８団体・８名

（あいさつ）

【蝦名市長】

お忙しい中、このように皆さんに集まっていただいて、「わかものふれあいトーク」を開くことができるのは、大変うれしい気持ちでいっぱいです。

「輝くまちづくり交付金事業」でチャレンジしながら、さまざまな事業を進めていただいており、皆さんはそれぞれ仕事をしながら、また、それを仕事としながら、さまざまな状況で力を出してもらっているのだなと、大変心強い気持ちでいっぱいでございます。

本日は、いろいろと話をして、何かまちづくりに結び付けることができたらと考えております。

私は３４歳で、市議会議員に立候補しました。まちづくりは、今やってできることもあるけれども、１０年、２０年先を考えることとなります。まちづくりは、どちらかというと年配の方が行っていたのですけれど、若い人、責任を持てる人がいろいろと進めていくことが、やはり一番いいのだろうと考えておりました。

その歳から２０数年経って、５８歳になりましたけれども、責任を持てる皆さんの世代の方からいろいろな話を聞かせていただいて、何かできればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

（自己紹介・活動紹介）

【出席者Ａ】

皆さん、こんばんは。「一般社団法人スキルチャレンジ」のＡと申します。

私は、メインといたしまして、日本製紙で工場勤務をしております。また、アイスホッケーの指導者を１０年程やっており、アイスホッケーを通して、釧路に足りないものは何かということを考えておりました。

それで、サラリーマンをしながら一般社団法人を立ち上げて、市内でアイスホッケーを中心に活動しております。

また、アイスホッケーだけではなくて、子どもたちに必要なもの、例えば、子どもの時にやらないといけないことなどがたくさん見えてきまして、市内の小・中学生と幼稚園児を対象に、体作りのための活動もしております。

釧路に貢献するため、自分は指導者としての経験をもとに、今後の子どもたちの育成に、力を注いでいきたいと思っております。

将来ある子どもたちを、一人でも多くのアスリートとして育てていきたいという思いを強く思っておりますので、今後も頑張っていきたいと思っております。

【出席者Ｂ】

私は、「うつくしろ創造協議会」という団体の、Ｂといいます。

普段は、「株式会社うつくしろ」という会社を経営しており、「くしろフィス」という女性の起業支援、シェアオフィスとコワーキングを行っていることが一つと、他に「くしろ若者サポートステーション」で、キャリアカウンセラーとして勤務しており、「くらしごと」の、生活困窮者自立支援事業の相談窓口でも、１年間、推進員をしております。

「うつくしろ創造協議会」は任意団体であり、今回、「輝くまちづくり交付金事業」の採択をいただいた活動内容は、畑で婚活という事業です。
これは、畑を借りて、実際に農作業をすることによって、形式的なお見合いのような感じではなく、作業を通じながら植物を育て、出会いの場を作ることができたらと考えたものです。
全部で３回実施いたしました。畑で２回行ったのですが、台風があったことから、植物が全滅してしまい、３回目は、ハロウィンパーティーということで、参加者みんなで昼食を作りながら交流をしました。
参加者は、全３回で、男性が１２名、女性が１１名、合計２３名でした。
１回目、２回目の畑で実施した時には、参加者が少なくて、男性２名、女性２名でした。
なかなかマッチングは難しいと思い、年齢層についても、男性が３０代で、女性が２０代であったりとか、次の回には、逆のパターンになったり、なかなか婚活といっても、出会いの場だけを作っても違うものなのかなと思いました。
私たち協議会のメンバーは全員、子育てをしながらこの釧路で生きていこうという女性たちで、そのような姿を参加者に見ていただいて、子どもを育てながらこの地域で生きていくということは、どのようなことなのかということも、伝えられるのではないかと思い、活動しておりました。
実際、ここから何が生まれたということはないのですけれど、最後の回では、参加者がfacebook でつながるということもありましたので、また次年度も開催することができればと考えております。

【出席者Ｃ】
「ＮＰＯ法人和（なごみ）シッポファーレ！」で管理者をさせていただいております、Ｃと申します。今回は、「ボーダレスアートサポートセンタークシロ」として、参加をさせていただきました。
「シッポファーレ！」は、障害者就労支援事業所Ａ型として、障がいのある方が仕事をする場所です。
私は、そこで仕事をしており、この中の自主事業として、障がい者アート、これをボーダレスアートと言っているのですが、他にアール・ブリュットなどいろいろな言い方がありまして、２年前にＥＧＧを５日間貸し切りにさせていただいて、ボーダレスアートを展示するイベントと、市内の２３店舗でアートの作品を飾っていただき、スタンプラリーを行う企画を立てました。
２年前、ＥＧＧでは約２，０００人弱の方に見ていただいて、スタンプラリーも１００件以上の応募がありました。
前回行ったスタンプラリーが好評でしたので、今回も昨年１１月からスタンプラリーを実施いたしました。今回は、市内の５３店舗に作品を展示させていただき、２００件弱の応募があり、前回よりも好評でした。
「ボーダレスアートサポートセンタークシロ」は、いろいろな人に委員として参加していただいており、「シゲチャンランド」の大西氏や、鳥取中学校の先生など、幅広いジャンルの方が活動しております。

【出席者Ｄ】
Ｄと申します。今日は、「くしろ健康産業推進協議会」の委員ということで、参加させていただいております。
「くしろ健康産業推進協議会」は、昨年度、釧路青年会議所の地域再興委員会メンバーが、釧路の地域力から健康ビジネスを考える会として、市内で４回程ワークショップを開

催させていただきました。
　今日の出席者の皆さんの中にも、何人かご参加いただいた方がいらっしゃいます。
　内容につきましては、釧路地域において地域イノベーションを引き起こし、新しい健康ビジネスを創出するためのワークショップシリーズを開催するというものです。
　平成２８年は、慶応大学から講師をお招きし、いろいろ斬新なワークショップを実施させていただきまして、最後に、ビジネスアイデアを３つに絞りました。
　１つめが、キクイモを利用したビジネスを考えられないかということです。
　２つめが、ファットバイクという、車輪が非常に太い自転車があるのですけれども、それを用いた新しいアクティビティを、釧路湿原で定着させられないかという、スポーツアクティビティの観点からのビジネスになります。
　３つめは、アイスホッケーは非常に釧路でスポーツとして盛んですけれども、スピードスケートやフィギュアスケートのためのイベントであるとか、何かビジネスにつながるようなアイデアはないだろうかということです。
　氷都というだけのことはありますので、名実ともにスピードスケートやフィギュアスケートも、釧路のＰＲの一つとならないだろうかということで、ビジネスアイデアを３つに絞って終わりました。
　「くしろ健康産業推進協議会」は、釧路青年会議所が中心となって協議会を設立しており、平成２９年は、今後３つに絞ったビジネスを、どのように市内で展開していけるかということを、一般企業の方々も交えて、実施に向けて頑張っていこうということで、これから動き出すところです。

【出席者Ｅ】
　「ＮＰＯ法人くしろ・わっと」のＥと申します。
　「くしろ・わっと」と聞くと、皆さん、「釧路市民活動センター」のイメージが強いと思います。
　ご利用していただいていると思いますが、こちらは市の施設で、指定管理を受けて管理運営を行っているという形なのですけれども、実は「くしろ・わっと」は、それだけではないということを、今日は、少しお話をさせていただきたいと思います。
　「くしろ・わっと」は、市からの指定管理の業務のほかに、自主事業があります。
　その一つとして、釧路では、今、唯一と言われているレンタルサイクル事業を、私たち「くしろ・わっと」が担っております。
　今回、「輝くまちづくり交付金事業」で、電動自転車等をリースし、新たなロードマップの作成も手掛けました。
　２年連続で、交付金事業に採択されたことにより、高価ですが、電動自転車をリースさせていただいて、全部で通常のサイクルと電動サイクル、マウンテンバイクの計１１台を用意させていただきました。
　この事業の特徴は、自転車のレンタルももちろんなのですが、手作りのロードマップの作成というものが非常に面白いものです。
　校正して立派に見えますけれど、学生がイチから全て手掛けたものです。
　このロードマップは、昨年度作った「まちなかロードマップ」と、今年度作った「サイクリング用湿原コース」の２種類があり、それぞれに日本語版と英語版があります。
　全て大学生が現地調査や現地のお店を回り、有益な情報やコース、必要時間も全て計って作っております。自前のパソコンで大学生が作り、それを印刷会社にデータ送信し、校正して作成したものです。
　レンタルサイクル事業の他には、１２月から４カ月連続でトークサロンを開催しております。

また、市役所に防災庁舎ができたということで、一昨年から、「まちなかビアガーデン」を、開催させていただいております。
「まちなかビアガーデン」の開催により、まちの中に人を呼び、防災庁舎がどのようなものか知っていただき、気軽に入ることができるということ、万が一、まちに滞在していた時や困った時に、防災庁舎に逃げなくてはならないとか、その中の機能をお伝えするために、我々がその情報を広めております。
今年は、防災の年にしようということで、３月から定期的に「釧路の防災を考える市民ワークショップ」全４、５回の開催を予定しており、今回は防災士の辻川先生をお呼びし、防災のことを身近に考えてもらおうということを、「くしろ・わっと」が主催で行うことになりました。
その他にも、例年、「くしろチューリップ＆花フェア」を開催しており、また、「ひぶな幼稚園」さんと旧柏木小学校で、じゃがいもを植えたり野菜を作ったりする「農園事業」をやっております。
私たちは、まちづくりの中心で居続けるために、これからも一生懸命頑張ろうと思っております。

【出席者Ｆ】
「クスろ」という市民団体の代表のＦと申します。
私たちは、２０１４年（平成２６年）に、釧路市の交付金をいただきまして、活動をスタートさせた団体です。
「会いに行きたい人がいるまち釧路」というものを実現するために、日々、釧路地域の魅力的な人を発信し、実際に出会える場を作る活動をしております。
私たちは、釧路に魅力的な人がいるということを知っておりましたけれども、それらの人を紹介する場や、実際にそれらの人に出会う方法が情報として発信されていないということが、課題の一つとしてありました。
もう一つの課題として、地域の人たちが、まちに関わることに意識がいかないということを感じていました。
私と、当時、東京に住んでいた副代表のメンバーが、今からでも、東京と釧路で関われる取り組みができないかということで始めました。
これらの課題をもとに実行している内容が、発信と出会える場の創出の２つです。
今は、人の紹介と出会える場を作る活動を、ＷＥＢサイト「クスろ港」を開いて発信しており、他には、「人めぐり帳」や「フォトブック」などフリーペーパーの２つで発信しております。
出会える場については、人めぐりツアーを夏と冬バージョンで２回実施いたしまして、６組の魅力ある人に出会えるというものを、１５人規模で開催しました。そして、参加者の皆さんからいただいた感想を、後日お届けするということを行っております。先日開催したツアーには、東京に住んでいる方が５名、札幌から１名、弟子屈から１名、釧路からは４名の方が参加されました。
道内外の人が同時に、魅力的な人に出会うことにより、いろいろな視点が入って、新たな認識や、新しい感想が生まれました。
後日、参加者から、まりもようかんを東京の原宿のデザインオフィスで、食べようとして開けている画像が送られてきたり、川崎に住んでいる方が、Facebook に長いレポートを作っていただいたり、釧路市の方が自作でムービーを作っていただいたり、こちらからお願いをしていないのですが、皆さんが独自で発信してくれる状況が生まれております。
私たちは、今後もこのような魅力的な人を発掘して、発信するだけではなく、出会える場というものを、たくさん作っていきたいと思っております。

【出席者Ｇ】

「Member 制作実行委員会」のＧと申します。よろしくお願いいたします。

私は、元々、実家が阿寒湖畔で、みんな冬場の体育はスピードスケートだと思っており、釧路に引っ越して来て、初めて、アイスホッケーであることを知りました。

私は、会社員として広告会社で働いており、印刷会社の方やアイスホッケー経験者の方と話す機会がありました。

アイスホッケーの中学校のチームは、来年からは３チームになるような現状にあり、私自身は、アイスホッケー経験者ではないのですが、釧路の文化という部分で、子どもたちに残していきたいと考えました。

私は、阿寒湖畔で育っているので、大人になったらアイヌ文化を子どもたちに継承していくものだと思っていたことから、このアイスホッケーというスポーツ文化を、釧路の子どもたちに残していくことも大人の仕事だと感じております。

私たちは会社員として、自分たちに何ができるのかを考え、仕事以外の時間しか使えないなど、いろいろなことを考えた結果、広告会社と印刷会社、そしてカメラマンもいたことから、私たち自身の仕事を利用して、雑誌という形で伝えることができるのではないかということになりました。

アイスホッケーを見る機会が減っている中で、アイスホッケーを知ってもらうために、子どもたちが、直接、手に取って、アイスホッケーを魅力的に感じてもらえるような雑誌を作ろうしたことがスタートです。

我々は、雑誌の制作費については、広告協賛という形にしました。子どもたちに配布をするために、釧路市教育委員会に趣旨説明を行い、広告だけの雑誌にならないよう広告と記事との比率を計算し、許可をいただいて、学校配布が叶いました。

今は、釧路市、釧路町の幼稚園、保育園、そして、釧路市、釧路町、釧路管内の小学校、中学校、高校まで、全校生徒に１冊ずつ配るということで、３４，０００部を発行しております。現在は、年４回発行、配布している状況です。

今回、「輝くまちづくり交付金事業」で実施した内容は、「Member＋Over」で推奨している「ジュニアアスリートサポート事業」です。

我々が活動をする上で問題としているのは、釧路のジュニアアスリートの現状として、スポーツは食事がとても大切なことなのですが、大会などのお弁当でからあげを平気で食べているなど、その認知度が非常に低いということがあります。

才能のある子どもたちがいるにも関わらず、サポートしきれていない状況であるため、「Member＋Over」を使ってサポートをしたいということで、「輝くまちづくり交付金事業」に手をあげさせていただいて、交付金をいただきました。

事業目的は、ジュニアアスリートを食事面からサポートし、かつ、釧路産の食材を使ったアスリート食レシピの開発を行い、アスリート食に対する認知度を上げるというものです。

アスリートの強化ももちろんですが、Ｂ級グルメやご当地グルメとは違った、釧路産の「釧路アスリート食」という新しい食文化として発展していけるのではないかということで、釧路短期大学の公認スポーツ栄養士である山崎美枝先生にお願いして、「Member＋Over」で連載をしていただくことが叶いました。

そこから、釧路産食材を用いたアスリートレシピを開発していただき、今回作っていただいたのは、サンマを使った「おにぎらず」です。さらに、タラを使ったレシピや、釧路産コンブを使ったレシピなどを開発していただいて、「Member＋Over」の中で、紹介させていただいております。

これらの連載したレシピについては、交付金を使わせていただいて、アスリートレシピという１冊の本にいたしました。

これを、釧路市教育委員会スポーツ課の協力により、湿原の風アリーナで行われる釧路市の少年団の体力テストの際に配布し説明をさせていただき、体育協会の総会でも配布させていただく予定です。また、スキルチャレンジさんのトレスタでも活用していただけるということで、連携させていただこうと思っております。

さらに、交付金事業とは別に、多くのアスリートが書いているスポーツノートというものを制作しています。

スポーツノートは、練習の振り返り等を書くものなのですが、それと共に食トレーニングの欄を付けました。これによって、食事も練習の一つであるという考えを、子どもたち、指導者、保護者に持っていただこうという目的です。

このノートも先程と同様に、少年団の体力テスト、いろいろなチームや団体に配布しているほか、スキルチャレンジさんのトレスタと一緒に連携させてもらう予定です。このノートを使っていただいて、アスリート食に関する認知とＰＲという部分で活動しています。

実際に使っていただいたチームからは、子どもたちが、自分たちでチーム内に声を掛け合ってノートに書き、食事に気をつけているということです。

親子でレシピブックを読むことや、子どもが自分でノートに記入をしていくことで、食事への意識が変わったという話を聞き、我々の事業の目的は、少しクリアできたと思っております。

今後の活動として、食事のサポート面については、保護者、指導者の意識が低いという部分があることから、いろいろな団体と連携しながら、その点を重点的に活動していくことと、釧路産アスリート食のレシピ開発を継続していきます。

アスリート食の認知の部分については、次年度に食トレの教室やゲストを招いた講演会を実施したいと思っております。

【出席者Ｈ】

Ｈと申します。「株式会社シーズサービス」と連携いたしまして、「幸せ未来塾実行委員会」として結婚支援事業を行っております。

まだ、事業の活動としては行っておりませんが、３月１２日（日）の実施に向けて、今、参加者を募集している最中です。

昨日の新聞に載っており、今現在、申込が６件ありました。

現状は、女性の方が多く、６人中、２人が男性で、残りが女性です。

もう一つ「婚活福袋」という形で、セミナーを開催していく予定があります。

婚活に向けて、自身の見た目や内面の話、また接し方やマナー等を重点的に直していただくことや、自分磨きをしていただき、婚活の場で役立てていただこうというものです。

こちらは、まだ、応募が来ておりませんので、引き続き募集を継続しているところです。

（懇談・意見交換）

【出席者Ａ】

釧路のアイスホッケーのチーム数が、小学校、中学校、高校ともに減っており、このままいけば５年間で、釧路のアイスホッケーが無くなることを危惧しております。

苫小牧では、子どもたちにアイスホッケーの防具を提供し、アイスホッケー競技の底辺を支える活動を継続しています。

私はそれを独自に行おうと考え、新たに始めまして、釧路で余っているアイスホッケーの防具をトレスタに集め、提供している状況です。

私はアイスホッケーの指導も含めて、強化も普及も拡大も、全て行っていこうと活動しているのですけれど、お金も人材も不足していることが一番の悩みです。

【出席者Ｇ】
釧路では、アイスホッケーだけではなくて、スポーツの競技人口が、かなり減っております。野球でも来年はチームを組めないかもしれないという話を聞きます。
これらの理由として、お母さん方が仕事をしていて送り迎えができない、母子家庭でお金がないからできないなどの事情がとても多いです。
先程の防具の貸し出しについては、アイスホッケーはとてもお金がかかるイメージが強く、子どもがアイスホッケーをやりたいと言っても、ためらってしまうお母さん方が多いことから、そのような場合にサポートをする事業だと思います。

【蝦名市長】
子どもたちは成長するので、防具のサイズなど変わる要素もありますね。
学校の方はどうなのでしょうか。基本的には、小学校は部活がない形になるから、任意という形の中でアイスホッケーをやっているのでしょうか。

【出席者Ａ】
釧路は、まだ小学校単位や、合同チームというものがメインですが、苫小牧では、ほぼクラブチームで行っております。
釧路もクラブ化していかないと、今後、おそらく成り立っていかないと思います。
ただ、指導者も課題があり、私も、もう少しで３４歳になりますが、同じぐらいの年齢の指導者がいない状況です。私より下の年齢の指導者はおりませんから、私は、子どもたちの強化、普及もですが、指導者も育てなければいけないと思っております。

【出席者Ｆ】
市長にお伺いをしたいのですが、先程、１０年後、２０年後先の未来の話をなさっておりましたが、今の私たちの世代に対して、１０年後、２０年後はどのようになってほしいであるとか、今、どのようにつながっていてほしいなどのお考えがありますでしょうか。

【蝦名市長】
まちづくりについて、できるだけさまざまな課題は先送りしないようにしていきたいと思っております。
課題を先送りせず、重荷をなくすのが、私たちの責任だと思っております。
そして、１０年後、２０年後は、今、２０代、３０代の方々が進めていくようになると思っており、どのように進めていくのかは、最終的には、その世代の人たちが決めるのだろうと思っております。
３０年後についてはこんなイメージで、という思いはありますが、次の世代の方たちがベストを尽くしていくことが大事だろうと思っております。
ただ、将来に向けて勢いはつけたいと思いますので、行政として財政の構造をどのようにしていこうとか、人口減少社会に対してどんなことをしていこうと考えております。
皆さんのやりたいことや、このようになったらやりやすくなるといったことを言ってもらえれば、行政としてサポートしていきたいと思っております。

【出席者Ｃ】
我々の団体では、来年度には、スタンプラリーを１００件のお店に増やしたいと考えております。
また、釧路市をアートのまちにするような形を目指しておりまして、釧路駅地下道の壁一面をアートで埋め尽くすことができたらと考えています。

【蝦名市長】
　そういうものは、面白いですね。例えば、釧路駅地下道にアートがあるとか、北大通やどこかの通りで、地元の作家の作品があるとかですね。
　先日も、木原健太郎氏のコンサートに行ってきたのですが、そのような演奏がまちなかで流れたりすることもいいですよね。

【出席者Ｇ】
　もし、釧路駅地下道でアートのイベントを開催するのであれば、釧路駅地下道を出た場所のスペースも借りて、全部イベントスペースにすることもできれば面白いと思います。

【蝦名市長】
　そのように、いろいろな話が出ればいいと思います。
　よく整理整頓をしなさいといいますが、整理整頓自体も大切なことなのですけれども、実はあまり賑わいには結び付かない感じもあります。
　行政は、整理整頓が得意な部分でありますが、そのような賑わい創出のためには、もしかしたら、もう一度、ごちゃごちゃさせた方がいいのかもしれない思うところもあります。

【出席者Ｆ】
　私は、個人的に、皆さんが好きなことを自己表現し、自分を肯定していく人が増えていくことが、このまちの繁栄につながると思っておりまして、一人でも多くそのような人が増えていけばいいと思っております。
　今、皆さんが取り組まれているさまざまな活動については、既に進んでいることですので、皆さんがこれからの若い人たちのお手本になっていると思います。
　そのような人がさらに増えるためには、応援し合う仕組みや雰囲気を、今、活動している人たちが持っていることが大切であると思っております。
　蝦名市長や、皆さん、先輩方のお力添えのもと、私たちの世代が、好き勝手にさせていただけるような雰囲気、失敗して七転び八起きしておりますが、温かく見守ってくれている雰囲気がありがたいです。

【蝦名市長】
　私は、皆さんがチャレンジしてくれることは大変いいことと思います。皆さんがそのように活動して、やりやすいことができるまちというものが、まちの魅力だと思います。

【出席者Ｅ】
　私たちが直面している課題としては、昨年、報道などで出ていましたけれど、道内のまちづくりに携わる２０～３０代の若者が減少しているということです。
　先程、人を教える側を育てなければということは、そのとおりで、アイスホッケーだけではなく、まちづくりの担い手もいないことから、今後、私たちの活動が回っていかないのではないかと思っております。
　１０年後、２０年後に、私たちの世代の次の担い手がいるかどうかが、釧路でまちづくりに携わってくれる若者が、残っているのかどうかが、私は不安です。

【出席者Ｇ】
　若手不足は、どこも一緒で「Member 制作実行委員会」も、私の他は、全員４０歳を超えておりますし、別の団体の「釧路ラーメン麺遊会」にも所属しているのですが、年齢については、上の方々は６０代、７０代になってきましたので、そろそろ考えなければいけな

いという話をしております。

【出席者Ｆ】
　やはり、若く、興味を持っている人が少しでもいれば、私たちが声をかけて、手を引いて、一緒に教えながらやっていくということも大事だと思います。
　若い人たちには、ぜひ自分のやりたいことだけを見るのではなく、人のためになることを知ってほしいと思います。

【蝦名市長】
　皆さんは、普段からさらに若い人たちのことも考えてくれているのですね。

【出席者Ｄ】
　確かに、若者自身が自分の住んでいるまちを、詳しく知らない状況であると思います。それは、かなり問題になってくると思います。
　そこが、釧路から離れていく原因になってしまいますので、やはり、若い世代には、若いうちからそのような教育とかあるといいと思います。

【出席者Ｇ】
　ふるさと教育という形では、行っておりますね。

【蝦名市長】
　小学校４年生の時に「くしろ」という教材によって学習するのですが、それを皆さんがどれだけ覚えているのかですよね。自分の時を考えても、確かに、あまり覚えていなかったと思います。

【出席者Ｆ】
　浜中町の霧多布高校で、総合学習の時間に地域の人たちが講師になり、１～２時間のお話をする「浜中学」というものをやっております。
　自然ガイドの方や、ペンションのオーナーの方、湿原センターの担当者の方が来て、とても自由に行っております。
　「浜中学」は、高校１年生の時に学習して、２年生の時に中学生向けに、彼らが覚えた知識で出前授業を行い、３年生の時に発表を行います。
　釧路でも座学ではなく、地域が触れ合って教えていくような、総合学習ができたらいいと思っております。

【蝦名市長】
　その仕組みは、すごいですね。地元の講師から聞いて終わりではなく、中学生向けに高校生が授業をするということは、すごいと思います。
　今は、特色のある学校ということで、いろいろな形がありますね。例えば、アイヌ文化を学習している明輝高校などがあります。

【出席者Ｆ】
　湖陵高校では、スーパーサイエンスハイスクールがありますね。
　弟子屈高校や標茶高校も、独自のカリキュラムを行っており、とても面白いです。
　弟子屈高校は、文部科学省の指定校で、オールイングリッシュで英語を学習していたり、地域の発信をするムービーを作成したりして、全国大会に出場しております。

標茶高校は、自分たちで工場を持っているので、アイスクリームを作っています。
また、食品製造だけではなく、地域の観光にも関わっておりまして、自分たちがアウトドアガイドのようなことを、観光客向けにしております。

【蝦名市長】
釧路にクルーズ船が来た時に、標茶高校の生徒たちが来ていましたね。通訳をしておりましたし、驚きました。
ぜひとも、この世代が、いろいろなところでたくさん活動をしていってくれたらと思います。
うまくいかなくてもいいと思います。そのようなものが出て、あそこの活動は、いろいろと面白いですよというイメージを持っていただければいいのですからね。

【出席者Ｆ】
私は、お子さんに、将来自分たちが食べていけるような産業を、今から育てたいと思っています。
アスリートやビジネスマンや起業家を、今からどのように育てていくかを、大人が本気で一緒に考えたいと思っております。
大人は自分で選択できますが、子どもには、選択肢を与えないといけません。選択肢を与えて、みんなで育てていければと思っております。
今、目に前にあるもの、学校にあるものだけではなく、いろいろなものに出会える機会を、自分たちが持っている専門性を使って、まち全体がキッザニアみたいな感じにできればというイメージがあり、実現できないかと思っております。

【出席者Ｇ】
職業体験をしたいということですか。

【出席者Ｆ】
そうですね。このまちで、職業体験もできるし、それが、夢になることもあります。また、失敗したら別の方に行くなど、すぐに、誰かに聞けばわかるみたいな感じがいいかと思っております
子どもがこのようなものを作りたいというものがありましたら、そのようなものが本当に形になるように、大人が全力でサポートする仕組みを、みんなで考えられないかと思っております。
雑多な中ということは、専門的な人もたくさんいると言い換えもできると思います。その専門的な人たちの価値を、言語化していくことなどです。
感覚的に職人であった漁師の方や、ハンターの方についても言語化していき、その人たちに、カリキュラムを作っていただいて、それを子どもたちに教えることにより、先程の「浜中学」ではないですが、子どもたち自身が将来のビジョンを描きやすくなるのではないかと思います。
それを教えてあげることが、私が言っている、まち全体がキッザニアというものです。そういうことをできないかと思っておりまして、人の発掘を続けております。

【蝦名市長】
いろいろなことに挑戦しやすいように、我々がどのようにサポートをし、見守るような風土、気風があればということですよね。
何かをやろうと思った時に相談しに行く場所は、なかなか無い訳ですからね。

例えば、起業するといっても、いろいろなことがありますよね。

【出席者Ｂ】
今、私のやっている「くしろフィス」では、女性の起業支援でシェアオフィスとして、１ブースいくらという形で行っております。
女性たちが働く理由はいろいろあるのですが、まず、誰かの役に立ちたいということがあります。家の中だけでは、存在が認められないからなのです。
それを、社会で仕事を通じて自分を表現し、自分という存在について、他者を通じて確認するなどの事例が多いと思います。
しかしながら、本当にたくさん稼ぎ、それだけで食べていけるのかといいますと、そうでもない訳です。
そういうことは、実際にやってみて分かることはたくさんありますし、やってみて、とても辛かったのであれば、就職するということも一つではないでしょうか。
その安全、安心については、会社がいかに守ってくれいていたかということも、やってみて分かることだと思います。
自分で仕事をするということは、とても大変ですからね。そのようなことを含めて、「くしろフィス」は、本当にチャレンジする場所です。

【蝦名市長】
そのようにいろいろとチャレンジしている方々がいますからね。

【出席者Ｈ】
我々の事業の場合は、まずは人を集めなければならない状況です。
我々は、カップリングを目標とするのではなく、結婚を目的にしたいと考えておりますので、お付き合いをして終わりではなく、結婚するまで３年程度、長い目で見ていきたいと思っています。

【出席者Ｇ】
お付き合いが始まってからも、サポートは続くということなのですか。

【出席者Ｈ】
はい、続きます。まち婚のように、カップルがスタートしておしまいではなく、中身を全部サポートしますということです。このことからも、大人数ではできませんので、２０人前後に限定して行いたいと考えております。

【出席者Ｆ】
それは女性からしたら、ありがたいと思うかもしれないですね。

【蝦名市長】
先程のアートの関係は、期間的には設置をするために、どのぐらいかかるのでしょうか。描いてあるものを置くだけなのか、それとも、そこに描き込むものなのでしょうか。

【出席者Ｃ】
取り外しができるような感じで考えています。現場で描いたら、結構日数がかかると思うので、そこまでは考えておりません。

【出席者Ｄ】
　私も職業柄、いつも広告媒体になる場所がないかと思い探しているのですが、北大通には空き店舗がかなりの数あり、いざ、店舗として入っても事業がうまくいかずに撤退されてしまうなど、いろいろなことがあると思います。
　でも、このまま長い間、空き店舗にしているよりは、所有者側の許可がないといけませんが、壁面等を使って、アートや広告により、お金を生むような仕組みや、店舗としてでなくても、通りが賑やかになるような仕組みがいいなと考えています。

【蝦名市長】
　デジタル画面の広告のようなものもありますよね。

【出席者Ｇ】
　我々のＮＰＯは、駅前にアイスアリーナを作るのが夢です。
　アイスアリーナを作って、こけら落としは誰に頼もうかと考えたりしています。

【蝦名市長】
　駅前というのは、駅につながっているということですか。

【出席者Ｇ】
　駅の横です。駅からつながっており、中に入ることができて、カフェや飲食店のモールもあって、中にアリーナがあるという施設です。
　普通のライブもできるし、体育館としてのスポーツもできて、もちろんシーズンは、アイスホッケーの試合やフィギュアスケートの試合が可能なものです。

【蝦名市長】
　なるほど、そのように機能が切り替わる訳ですね。

【出席者Ｇ】
　現在の丹頂アリーナに予算をかけて、例えばイルミネーションをつけたりとかはどうでしょうか。そこで、婚活イベントを開催して、Ｈさんがフォローしてくれる。壁面は全部アートで飾られる形です。

【蝦名市長】
　今、クレインズのホームになっておりますので、そこで見せるという場面に使えればいいですよね。やはり、行政が主体となると、飲食禁止とかありますしね。

【出席者Ａ】
　アジアリーグの大会の時だけ、飲食はよくなりましたが、それ以外はできません。

【蝦名市長】
　これは変えていけるものであれば、変えていきたいのですが、やはり世の中にはルールというものがあります。
　ルールというものは、いろいろな意味の中で、どのように変えられるのかを考えることが大事だと思います。
　今後も、皆さんが、さまざまなまちづくりの活動を行っていけるように、我々もできる限り、サポートをしていきたいと思います。